

# 平成 25 年度第 3 回恵那市市民評価委員会

## 議事録（要約版）

日時：平成 25 年 8 月 16 日（金）

午前 8 時 30 分出発

場所：恵那市内各地

（現地視察・ヒアリング）

---

### 1 視察・ヒアリング順序

- ・串原農産物加工施設管理運営経費
- ・明智地区農業関連施設維持管理経費
- ・山岡花・野菜育苗施設維持管理経費
- ・岩村地域特産物販販売施設維持管理経費
- ・おおわご遺跡資料館維持管理経費
- ・中山道広重美術館事業

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦、大竹典子、奥村ひとみ、田口譲、柘植麻美、平野未帆、宮地政臣、  
三輪哲司、山田基

【オブザーバー】竹内泰夫

【事務局】企画部長 小栗悟、企画課長 千藤秀明 企画課係長 服藤知晃、  
企画課主査 橋本孝純

---

## ■ 串原農産物加工施設管理運営経費

- 担当職員 (資料にて説明)
- 委員 事業目的に農地の遊休化防止により大豆等転作とあるがどのくらい防止できたのか。
- 担当職員 振興事務所では数値はつかんでいない。ただ遊休農地となると思われる所で大豆の作付けを営農組合で行っている。
- 委員 大豆は串原のものを使用しているのか。
- 担当課 串原の大豆を使用している。
- 委員 遊休農地の解消率はどうか。
- 担当課 数値は掴んでいないがほ場整備を実施しており、解消していると思う。
- 委員 目的に農業所得の向上がある。この施設の説明を聞くと赤字が膨らむことも考えられる。ピアゴに豆腐を8丁納品するという事は、車の燃料代など考えると採算が合わない。遊休農地の解消のためにやっているのか続けていく意味は何か。
- 担当課 豆腐、味噌などを生産しているが、言われるように経費をかけている。ただ、会員が豆腐、味噌を生産することにより生きがいを持って働いている。
- 委員 外へのPRが出来ていない。大量に扱ってくれるところを探すべき。
- 担当職員 厳しい状況である。会員の皆さんの強い思いが必要である。
- 委員 担当課である農業振興課が方向性をどのように持っているか。方向性を示さないとだめ。
- 委員 平成12年に旧串原村が建てた建物であり、合併後の考えはどうか。
- 委員 大変なことだと考えてやっていかないといけない。
- 委員 市内のスーパーでは豆腐1丁38円で販売しており、大体5倍の200円で販売している。それを買うのか。
- 委員 今は2極化しており、安いものを買われる人と高くても美味しければ買う人もいる。
- 委員 いいところを考えPRしないといけない。
- 委員 地元のものを使って生産しているという考えが必要。
- 委員 PRにはかなりの金額がかかる。また多くの注文があったときに対応できるかが問題である。

■明智地区農業関連施設維持管理経費

■明智地区農産物加工施設維持管理経費

- 担当職員 (資料により説明)
- 委員 おんさい工房は安く使いやすい。平成 23 年に人件費が増加している理由は。
- 事務局 平成 24 年度から人件費の積算方法を変更したことにより増加した。
- 委員 販売ルートの拡大はどのようにしているか。
- 担当職員 役員等の個人的なネットワークにより、市内はもとより市外の道の駅や市の関連施設などで販売している。
- 委員 役員等がセールスをして、個人的に広げているのか。
- 担当職員 はい。
- 委員 地場産業である。販路もあり黒字か。
- 担当職員 役員が 3 名おり、赤字となる場合、役員の給与で調整している。赤字の部分は役員の給料を調整することになる。
- 委員 一般企業ではそのような対応となっている。赤字ではないのか。
- 担当職員 そのようなこともあり、役員の給与で調整している状況ですので赤字ではないと思います。
- 委員 ふれあい会館吉良見から生活改善センターは近い距離にあり、ふれあい会館吉良見のような施設があれば生活改善センターは使用していないのではないか。使用していなければ英断して廃止すべき。
- 担当職員 平成 19 年前後に地元から払い下げして欲しい旨の要望があった。底地が J A であり払い下げできず、今に至っている。
- 事務局 市内には、底地が J A で建物が市の所有物や逆のものもある。これらを含めて処理する。
- 委員 これらの施設は農業振興課が方針を出すのか。
- 担当職員 行財政改革行動計画により指定管理となっている地域集会施設は地元へ移譲することになっている。東方センター及び杉野集会センターは地元へ移譲の予定であり、横通集会センターについては、地元と調整中である。
- 委員 J A との問題があるといったが、この扱いは類似施設と一緒に処理するのか。
- 事務局 三郷のカントリーエレベータの底地は市であったり、アミックスの問題もあるのでそれらと一体に処理をしていく。
- 委員 農業所得を上げることが出来るのか。売り上げが下がっているが努力しているのか。
- 担当職員 現在農家が約 600 戸ある。48 の農家と契約し収穫されたものを主におんさい工房や浪漫亭で販売している。おんさい工房が農家から取る販売手数料は 15% と

- 聞いている。今までは個人的に販売していたのが、おんさい工房に引き取ってもらえるようになったので、販路が向上したのではないかと思われる。おんさい工房は、安心、安全な商品の生産、販売に取り組んでいる。
- 委員 安心、安全はどこでもやっている。これで売れるのか。安くなければ販売できない。
- 担当職員 契約している農家には野菜等の消毒等について指導し、条件を付けて栽培した物を受け入れている。
- 委員 それでやっていけるのか。
- 担当職員 農家が徐々に減ってはいる。
- 委員 おんさい工房を作った女性部は高齢化している。若返りを図るため、携わる人の入れ替えも必要ではないか。
- 担当職員 平成12年3月に設立した農業組合法人が経営している。この組織が中心となり契約農家を拡大していかないといけない。
- 委員 加工に携わる人の指導や、法人格を含めて指導が必要ではないか。振興事務所で出来るのか。本庁担当課が地域の振興に資するようにしなければならない。
- 担当職員 現在指定管理となっている。本庁の担当課と連携して行くことになる。
- 委員 東方センターを含む5施設で約250万円の費用がかかっている。このような状況を解決しなければいけない。市民の公平性を図っていかないといけない。
- 委員 おんさい工房はパート4人と役員といわれたが役員の役割は。
- 担当職員 代表理事、理事と監事となる。
- 委員（オ） 販売額が3,100万円から2,700万円に減少している。どうしてか。マーケティングはしているのか。
- 担当職員 取り扱っているものは、露地野菜、野菜の加工品、カステラ、大福もち、こんにゃく、トマトやりんごジュースなど手作りにこだわっている。新商品の試作販売を行ないながら商品の紹介を行なっている。販売額の減少理由についてはおんさい工房に確認を取っていない。
- 委員（オ） 生産額については、何が下がっているか分かればマーケティングができる。指定管理としているので、営業についても指導する必要がある。また経営もアドバイスすべき。評価としては、税金がしっかり使用されているか、経営管理まで行っているかが問題である。
- 委員 生活改善センターの利用率は低いのではないか。
- 担当職員 利用率は低い。
- 委員 どれくらいの利用か。
- 担当職員 ふれあい会館吉良見は244件、生活改善センター38件。

委員 このような利用率では、貸館は難しい。

委員 そう思う。利用料金単価も安い。自治会で建てているところはもっと高い。

委員 他の地域の人だと5千円を徴収している。

担当職員 利用料の体系は、合併前は各町村ばらばらであったので、公の施設の統一的な使用料の見直しを行なったもので、この施設だけが特別に安いのではなく、公の施設の料金体制としている。

委員 コミュニティセンターと同じか。

担当職員 同じである。コミュニティセンターと同じ体系としている。

#### ■山岡地区農業関連施設

#### ■山岡農村婦人の家

#### ■山岡花・野菜苗育苗施設

担当課職員 (資料により説明)

委員 新製品の開発について、恵那市には全国蘭展に出品する恵那農業高校があり、持っている能力を地域の振興にと文科省が言っている。学校と管理組合が連携して、地域の振興につながるという。また不和の問題があったと説明があったが、これは組合の解体につながる。この辺りを行政は原因を分析し、今後、このような不和が起きないように指導すべき。

委員 現状、6人で運営されているが、男女の比率は。

担当職員 2人が女性で4人が男性。不和の理由は、名前だけの組合員がおり、そのことにより不和となった。現在は実働の方が組織している。

委員(オ) どのような人が買いに来るのか。若い人なのか、都会の人なのか、市内市外また一般家庭が買いに来るのか農家に来るのか。

担当職員 温室は、地元の人が多い。イベントでは他市の人を買われる。他のイベントに併せて販売をしている。通常では、駐車場が一杯になることはない。苗は完売できるよう予約販売をしている。

委員 売り上げが低い。積極的に広範囲に販路を探すべき。恵那農高は販売もすばらしいものがあり、もっと販売を伸ばす余地があると思う。

担当職員 恵那農高との連携も勉強しながら進める。施設を建設したころはゴルフ場も景気がよく、注文も多かったが今は経営も厳しく注文がない。新規開拓を進める。

委員 販促を行う専門職はいるのか。

担当職員 組合長が行っている。

委員 先ほど、現地で寄せ植えを見させてもらい買う値打ちがあり、いいものだと思います。

う。販路を考えるといい。

担当職員 今、ミニトマトだけを販売するのではなく、パンジーと寄せ植えとするとトマトが病気にならないなど相性のいい寄せ植えにて販売するよう助言をしている。

委員 広告などは出しているのか。

担当職員 恵南地域のみ出している。

委員 大きな寄せ植えが良かったが、今日見たものは少し枯れていたので買わなかった。もっと寄せ植えを売らすべきではないか。

担当職員 寄せ植えは売れ行きも良いのもっと売っていきたい。ただ組合も最初は売れるのか心配であり、当初は20個の販売としており、直ぐに完売している。また昨年の冬には、寄せ植えで門松を作成したが、これも売れるか、売れ残ったことを心配して作成数を20個にして販売した。これも完売しているので、今年は作成数を増やして販売していく。

委員 これらの特産品として、明智、岩村など販路を広げていくべき。笠置ではゆずの生産をしているがゆずをとるまでで、加工まで進んでいない。加工とか他所にやり方など依頼して、特化すべき。

委員 プランターなどセンスがよく、いい物となっているが誰が考えているのか。

担当職員 組合員の家族でデザインをしている人がおり、その人が協力している。

委員 農村婦人の家に代わる施設はあるのか。

担当職員 コミュニティセンターに調理室がありそこが代替施設となる。ただし、こんにゃくの生産では専用の道具が全て農村婦人の家にある。施設の取り壊しについて、利用者に説明をしており、問題はない。

委員 田代集落農事集会所は地元移譲となっているが、移譲先は地縁団体か。

担当職員 田代区となる。

委員 対象地区の戸数は。

担当職員 100戸程となる。他の施設も含め進めている。

委員 建物が立派であり、維持管理経費もかかると思うがもらってもらえるのか。

担当職員 維持管理できない施設もあり、全て移譲ができるわけではない。

委員 他の地域と差がある。

担当職員 農の施設が多くある。

委員 婦人の家の廃止はいいが、女性が社会進出するために類似施設も必要である。当該団体と調整をするように。

#### ■岩村地域物産販売施設

- 担当職員 (資料にて説明)
- 委員 決算について、人件費は何名分か。
- 担当職員 正職4名(男1名、女性3名)と社長の5名分。
- 委員 施設の主管課が商工となっているのは、合併後に変更しているのか。農業関係では恵南では振興事務所が主管であるがどうか。
- 担当職員 平成23年度から商工観光課が主管課となっている。その前は農業振興課だったが、道の駅関連は商工観光課に変更となった。
- 委員 この様な施設は、街中にも必要。この施設を民間に貸し出すなど考えているか。
- 担当職員 補助金適正化法により平成25年まで規制がかけられている。今年まではこのまま続けなければならないが、平成26年度からどうするか検討しなければならないが、このまま継続するとはならない。指定管理として続ける場合は公募とするのか。市がいらないと判断した時は、売却となる。
- 委員 市としての考えか。
- 担当職員 指定管理をしている会社の意向も聞かなければならない。このままやられれば続けてもらうが修繕は考えていない。この会社が買いたいとなれば、売却もある。
- 委員 土地は市有地なのか。
- 担当職員 市有地。

#### ■おおわご遺跡資料館

- 担当職員 当初は施設を土曜日から月曜日まで開館していたが、入り難く入館者がいない。コストの面から収蔵庫としている。ダム下の公園管理が主となる。
- 委員 串原郷土館の主管課は文化課か。
- 担当職員 串原郷土館は振興事務所が管理し指定管理としている。現在は、岩村資料館のみが開館している。
- 委員 多くの人が見学に来る施設に出したほうがいいのではないか。正家廃寺や永田などを周遊する方向にすべき。

#### ■中山道広重美術館事業

- 担当職員 (館内講座室において事前質問事項に関し、資料説明)
- 委員 観覧料は一般会計に入るのか。
- 担当職員 市の一般会計に入る。あと収蔵品の貸し出しによりテレビ局や出版社から1点

5千円、年間10万円ほどの収入がある。ショップの収入は財団の収入となるが、販売商品の買い入れもあり、ほとんど収入としては残らない。

- 委員 入館料が769万円あるが、実質の市の負担はどれほどになるのか。
- 担当職員 実質的に4,300万円と人件費（館長、副館長の給与）となる。
- 委員 市長は建設当初700万円の実質的負担といわれ、計画ももっと多くの入館者を見込んでいた。建設当時、商店街は反対だった。資料の公共性には、採算性から民間では無理となっているが、努力が足りない。七日市では閉館していた。また周辺住民が使用できるとなっているが、非常に使いづらい。もっと商店街に近寄っていかねばいけない。私は商店街の人によく言われる。公共性の高いものであり、寄付してもらった収蔵品を永久保存しなければならない。努力しているというが十二分なのか。商店街はそんな意識をもっている。商店街に開かれた美術館ではない。知人が美術館で無償ボランティアで頑張っているが、みんながそんな意識にならないのはどうか。文面は逃げ口上だ。
- 委員 私も商店街が反対していたのを知っている。商店街が自由に使える部屋があると聞いたが、ボランティアの方とか、美術館に関わりのある人からの口利きがないと借りられないと聞く。実際には美術館の会員でないと借りられないのではないか。周辺の公共施設はこしかない。使用できる部屋があると思っていた。
- 委員 美術館が出来た経過だが、亡くなられた市民の寄付により出来た。市民の思いとは違ったが、そんな中でできた。当時の教育長が500円の入場料で60,000人の入館があり、3,000万円の収入があるため5~600万円の出費で済むとの説明があった。その中で現在15,000人と目標入場者数を変更したのはなぜか議論が必要である。大井町の関係区が使用し難いのは、この施設がこぞって賛成してできた施設ではない歴史的なことがある。市民に協力してもらえ、利用してもらえを念頭に入れてもらい運営を考えて欲しい。
- 委員 市民の美術館として欲しい。広重美術館となると広重のみとなるので、中山道ならいい。
- 委員 平成13年にオープンした。財団が考えて企画展をやっているが、それだけでなく商店街の意見も聞きながら企画展をやっていくこと。
- 委員 商店街には色々な意見や知識もある。市民に開放していくことも大切である。より充実して市民に密着した施設に。
- 委員 駅西駐車場に車をとめて来ることは商店街も期待をしていた。
- 委員 厳しい意見だが参考にして欲しい。
- 委員（オ） 建設の経緯を聞きびっくりした。これをテコに売り込んだらいい。名称変更も

いいタイミングであり、入館者数でもこの館は頑張っているほうである。まちなか広場があるがそこを美術館の駐車場にすることは無理か。これをテコにまちづくりをしてはどうか。今日、現地視察をした所でも、行政は動きが鈍い。建設の経緯を聞いたが建設されてしまった以上、進めるべきである。

委員 ひしや資料館や中山道美術館は月曜日休館であり、すべての施設が休館となってしまうとせっかく来た観光客が何も見られなくなるので行在所は火曜日休館とした。取り入れるものも多い。過去の事柄を知ってもらい、地域住民とどうからむかやって欲しい。

委員（オ） 団体客がバスで来た場合、駐車場はどうするのか。

担当職員 美術館前で下車してもらい、バスは美術館の北側と駅西駐車場に駐車している。

委員 観光コースに入れ込むといい。

担当職員 東京、大阪等の業者が企画立案したツアールートに組み込んでいただけるよう売込みをかけてきたが、今年は中央道のトンネルの天井崩落事故の影響もあり、団体客が激減した。市民の中にもリピータは多く、企画展を楽しみにしている。学校教育にも取り入れ版画を行っている。

委員 子どもにはもっと声をかけ、来させることが必要。

担当職員 学校や学年で来館している。版画の応募では、中学校で1学年、保育園では2～3園が応募しないだけで、3,300人を超える応募がある。

担当職員 美術館の理事評議員さんから商店街からの意見をもらっている。私も市民であり、昨年度七日市に開館していなかったと聞き恥ずかしい限りであった。偶然、月曜日に七日市が重なり、気がついた時には遅かった。

大勢の来館者があったのは、美人画の企画をしたときと記憶している。学芸員はその来館者数を超えたいとおもいで、24年度は山下清展を開催した。集客を延ばそうとする強い思いと、責任感を持って企画立案している。私たち事務方はいかに宣伝し、どこと連携してPR活動を進めていくかなど努力していかなければならない。湯快リゾートや湖楽園、近くの喫茶店でパンフレットを見て来た来館者もいた。1人でも多く来館してもらいたいし、企画展などではPR力が必要と強く感じている。東濃でも美術館がある市は少ない。恵那市の特徴として、市の大切な施設として、喜んでもらえるものとしたい。

委員 知り合いには意見があり、その意見を伝えた。その方にもこのような意見を伝える。

今日はいろいろのことを言ったが、この美術館のことについて誤解している者もいるので、今日聞いたことを今度は私が説明する。

委員 PR活動として、観光協会が名古屋駅のコンコースにポスターを掲示したがど

うか。

担当職員 コンコースに掲示すると確かに人目を引くが、必ずしも集客につながるとはいえない。費用対効果を考えるとできない。

現在、展示替えごとに、全国約 1,000 箇所へ企画展により 15,000 枚～20,000 枚のチラシを、美術館、博物館、大学、その他公共施設等に送付している。

委員 単独で行うと大変だが、他とタイアップしてやればいい。

担当職員 観光協会にもPR方法をご相談しながら進めていきたい。

委員 職員で類似施設を視察すべきである。多くの人が来館するにはそれだけの理由がある。それらのところを見ながら、自分の所の運営でマイナス面を見つけ、先進地を参考にすべき。

委員（オ） 広重美術館は全国にあるのか。

担当職員 静岡市の由比、栃木県那珂川町、山形県天童市にある。そこと交流を絶やさず、情報を得たい。また地域に方々の意見も大事に運営に活かしていきたい。

委員 入館者のうち、地元の人ほどのくらいか。

担当職員 地元の人（来館者）は、年間3千人くらいだと思われる。市民の日を12ヶ月設けており700人ほどの来館者がある。通常の開館日に館長と副館長とで入館者に声をかけ聞いたところ、大体それくらいになると推測される。

委員 聞きづらいこともたくさんあったと思うが、いろいろな考えや意見があることを十分理解して、美術館運営を行っていただきたい。